

沖縄タイムス 2013年 10月 23日 (水) 掲載

10月9日 うるま市海洋性空間活用円卓会議 紹介記事

※みらいファンド沖縄は、企画運営、司会・ファシリテーター派遣で協力しました

癒やし空間 観光の核に

うるまで海洋性活用会議

【うるま】市海洋性空間活用円卓会議がこのほど、与那城地区公民館で開かれた。JTB総合研究所の河野まゆみ主任研究員は市内の観光資源調査で、海や離島は訪問率や再訪意向が高い一方で、世界遺産の勝連城跡を除いた歴史文化系の観光資源は再訪意向が高くない調査結果を発表。「訪問率の高い海の駅をハブステーションとして強化し、環境に配慮して海の近くで、のんびりできる癒やし空間が開発キーワードだ」と提案した。

金武湾や海中道路などの観光資源について行政や企業、NPOの市民らが意見を話し合う会議。

河野さんの海やビーチに関する意向・動向調査は、県内外ともに自然に癒やされたいときに海に行きたいという回答が最も多く、子どもに自然を体験させるニーズの高さから、教育などの開発が集客につながる可能性を示した。

海岸学の提唱者で、ドキュメントやイラスト制作のトシ井坂さんは、マリンスポーツは一般的に難しいと考えられていると紹介。しかし、体の使い方を学べば、子どもからお年寄りまで気軽に楽しめるとし、「寛浅の市内東海岸は、初心者が楽しめるスポットとして最適」と提案した。

沖縄自然環境アクショングループの藤井晴彦代表は、自然を観光に活用するには、ルールを作り、自然環境の残し方を考えることが重要だとした。

市民・行政・企業が議論



行政や企業、NPOの関係者が、うるま市内の海岸地域などの活用について意見を交わした10日、うるま市与那城地区公民館